HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	mirは心態詞なのか：関心の与格の場合
Author(s)	塩谷, 幸子; SHIOYA, Yukiko
Citation	独語独文学科研究年報, 23, 1-14
Issue Date	1996-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26044
Type	departmental bulletin paper
File Information	23_P1-14.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

mir は心態詞なのか　―　関心の与格の場合

塩　谷　幸　子

0．序

関心の与格の mir は、代名詞の３格（与格）の持つ性質よりも、むしろ、心態詞の持つ性質との共通性が見られる。この論文では、心態詞の性質、特に心態詞の多義性や文型との関連性から、いわゆる関心の与格の mir は心態詞なのかどうか、ということについて検討し、合わせて心態詞とはどのような存在であるのかということについて考察する。

1．与格の概念

1．1．与格目的語（補足語）と自由与格

現代ドイツ語の３格 Dativ は、目的語として扱われるものと、それ以外の３格とに大別されることが多い。ヴァレンツ理論などでは主として、動詞の目的語の３格を考察対象とし、その他の３格は、自由与格 freier Dativ と呼ばれる。また、ヴァレンツ理論では、３格目的語のことを、補足語とも呼ぶ[1]。

1．2．自由与格

ここではまず、いわゆる自由与格 freier Dativ と呼ばれるものについて簡単に解説することする。自由与格は、主に次の５種類に分けられる。

（1）　Der Pförtner öffnet der Frau die Tür.

（利益の与格 Dativus commodi）

---

[1] 清水（1992）、S．35。

（2） Der Schlüssel fiel dem Jungen ins Wasser.

(損害の与格 Dativus incommodi)

（3） Sie sieht ihm ins Gesicht. (所有の与格 Pertinenzdativ)

（4） Fall mir nicht hin! (関心の与格 ethischer Dativ)

（5） Er arbeitet mir zu langsam. (判断の与格 Dativus iudicantis)

（1）では、「ドアが開くこと」は、「その女性 der Frau にとって都合のよいこと」である。それに対し（2）では、「鍵が水の中に落ちること」は、「その少年 dem Jungen にとっては望ましくないこと」である。（3）のいわゆる所有の与格[2]では、3格であらわされた人 ihm と体の一部の所有関係を表わしている。また、（4）の関心の与格は、一般に、話し手の情緒的な深い関心を表わし、（5）では、3格で示された人物の冷静な判断が述べられる。

ここで便宜上、「自由」与格と呼んだが、その出現が、全く自由であるとは限らない。例えば、所有の与格は、その文にとってはなくてはならない成分であって、「自由に」出現している訳ではない。自由与格とは言え、その出現は何等かの要素により、規定はされているであろう[3]。

1．3．関心の与格

先に挙げた自由与格の中でも、関心の与格は特殊な性質を持っている。

まず、他の自由与格とは異なり、関心の与格は３格の代名詞の形で用いられ、普通名詞や固有名詞、あるいは疑問詞などで表わすことはできない。

（6） Komm mir bloß rechtzeitig heim!

(6a) *Komm dem Max bloß rechtzeitig heim! (Thurmair 1989)

（7） Wem soll ich nicht fallen? (Wegener 1989)

従って、関心の与格は、具体的な事物を指示している代名詞の３格の働きはしていないことになる。

---

[2] 所有の与格を、さらに身体部分に関する狭義の所有の与格 Dativus possessivus と、装着物の与格 Trägerdativ とに下位区分することもある。

（i） Dem Jungen rutscht die Hose. (Trägerdativ)

[3] 小川（1991）、S．119−121 参照。

また関心の与格は、他の3格と一緒に用いることが可能である。

（8）Und mach mir dem Vater die Schuhe ordentlich sauber!　(Thurmair 1989)

このことから、関心の与格は文の中で、もはや3格としての機能は持っていない、と言うことができる。

この関心の与格の表わす意味上の特徴は、心態詞の持つ機能との共通性が見られ、しばしば比較されるものである。

2．関心の与格と心態詞

2．1．心態詞の一般的な特徴

まず、心態詞 Modalpartikel の特徴を、簡単にまとめておく。

心態詞というのは、不変化詞 Partikel の一種である。よって、心態詞は語形変化しない。それから、心態詞はアクセントを持たない。

心態詞は独立した文成分ではなく、文頭には立たず、また疑問文の答えにもならない。

（9）*Ja hat er die Prüfung gut bestanden.

（10）Wie gut hat er die Prüfung bestanden?

*Ja.　(Helbig 1990)

心態詞は、同じ語形でありながら品詞の異なる語、すなわち同音異義語を持っている。例えば、doch の場合、心態詞の doch と並んで、接続詞の doch や、副詞の doch が存在している。それから傾向として、1音節の短い言葉であることが多い。

また、心態詞は、特別な意味的なものは表現せず、文中に、特になくても構わないものであり、なくてもその文の意味は通じるが、話し手の心情や立場に関して、微妙なニュアンスを付け足す役割を果たす。日本語の終助詞の「ね」とか「よ」のような言葉などと、対照されることもある[4]。

---

[4] 小坂（1992）、第9章。

2. 2. 関心の与格と心態詞との類似性

関心の与格と心態詞のとの類似性は、Thurmair 、Wegener、Weinrich などによって指摘されている[5]。

いわゆる関心の与格は、一般に、次のような特徴を持っている。

まず、関心の与格は、アクセントは持たない。

(11) *Fall MIR nicht hin! (Thurmair 1989)

それから、文頭に立つことはできない。

(12) *Mir fallst du nicht ! (Wegener 1985)

文頭にある mir は、関心の与格ではなく、他の用法、あるいは目的語（補足語）の mir に限られる。

また、関心の与格は、mir 単独で用いることはできず、独立した文成分とは言えない。また、関係詞節で修飾することもできない。

(13) *Komm pünktlich nach Hause, und zwar mir!

(14) *Komm mir, die ich mich um dich sorge, pünktlich nach Hause!

(Wegener 1989)

それから、関心の与格は、たとえそれが用いられなかったとしても、その文の持つ真偽値などに影響はなく、話し手の心情を表わす微妙なニュアンスを付けるために用いられており、この点も心態詞の使われ方と共通している。

(15) Komm mir/ bloß/ nur/ ja/ aber/ doch/ auch pünktlich nach Hause!

(Wegener 1989)

---

[5] Thurmair (1989) 、Wegener (1985) 、Wegener (1989) 、Weinrich (1993) 、参照。

ここに挙げた関心の与格の性質は、すべて心態詞の持つ特徴と一致するものである。よって、関心の与格の３格は、もはや代名詞の3格ではなく、関心の与格と心態詞とは、非常に良く似た性質を持っており、関心の与格は、むしろ心態詞であると言って良いのではないか、と言うことができる。

2．3．問題点

関心の与格の mir は心態詞である、と言い切るのに、もちろん問題点はない訳ではない。

まず、思いつくのは、mir というのは、代名詞の3格であるから、活用した形であることが指摘される[6]。もし、mir を語形変化した形として捉えるならば、先に挙げた心態詞の原則に抵触する。

また、他の心態詞とは異なり、ほとんど中域の始めに出現し、他の指示代名詞のみが先行可能である。

(16) Komm *bloß mir/ *ja mir/ *aber mir/ *nur mir/ *auch mir/
ja bloß/ ?bloß ja/ aber ja nur/ aber nur ja/ pünktlich nach Haus!
(17) Daß du ihn mir/ *mir ihn niemandem verrätst! (Wegener 1989)

もちろん心態詞の組み合わせにより、どちらが先行されるかという、何かしらの制限はある場合があるが、mir は、必ず他の心態詞に先行して用いられる[7]。

また、素朴な疑問として、心態詞のような働きをする関心の与格は、mir だけに限られるか、同じ3格の代名詞の dir などについてはどうなのか、ということが思い浮かぶであろう。

心態詞と類似した関心の与格と呼ばれているものは、mir だけなのか、mir と dir 両方なのか、ということも意見が分かれている。dir についての例を挙げると、

(18) *Fall dir nicht hin!
(19) *Du bist dir vielleicht ein Früchtchen! (Thurmair 1989)

このような形では、dir を用いることはできない。しかし、

---

[6] Meibauer (1992)、S. 48。

[7] Wegener (1989)、S. 60。

(20) Der war dir besoffen! (Wegener 1988)

(20) のような例では、dir を関心の与格として用い、心態詞のような働きをさせることも可能になる[8]。

しかし、Meibauer (1992) に見られたような、mir は語形変化しているといった議論については、少なくとも mir 自身に語尾がついて活用する訳でもないので、mir は代名詞の3格であるから心態詞ではありえないと排除する必要はない。

由来ということを問題にするなら、心態詞によっては、動詞から発達してきた halt[9]のようなものも存在する。

(21) Die Prüfung ist halt zu schwer.

あるいは、bitte なども、心態詞的であるとも言えるであろう。

(22) Machen Sie bitte drei Kopien von diesem Vertrag!

これら halt や bitte の由来は動詞であるから、当然、人称変化等の語形変化と関係がある。

現在、心態詞としての用法がある言葉は、元々は接続詞だったり、副詞だったり、他の品詞から発達してきたものである。そのため、心態詞は同音異義語を持ち、また、多義的になる。他の品詞から発達してきたという点は、どの心態詞でも共通している訳であるから、由来が、代名詞であるから、動詞、接続詞であるから、といって、そこで区別する必要はないであろう。

以下の章で詳しく、dir の問題等も含めて、mir の Partikel 性について検討して行くことにする。

3. MIR と文型

---

[8]dir を関心の与格に含めたとしても、やはりほとんど1人称か2人称の単数の場合に限られるが、方言によっては、3人称の例も見られることがある。

(i) Das war Ihnen so ein Kerl!

Dös war Eahna fei a ganz Gscheita! (schwäbisch) (Wegener 1985)

[9] halt は、主に南ドイツで使われる心態詞である。

3. 1. 文型とは何か

心態詞の特徴として挙げられることに、もう一つ、文型 Satzmodus との密接な関連性が指摘されている。

文型とは何か、ということについては、様々な議論がある[10]。それについて、ここでは詳しくは述べないが、簡単に言えば、形式上の特徴 － 例えば、動詞が文頭にあるとか、疑問詞が用いられているとかいないのか － と、その形式面の特徴に基づいて生じる機能 － 命令とか、質問など － 形と機能との、2つの面から成り立っている。

ドイツ語の文型として、どのような文のタイプが存在するか、という問題については、幾つもの意見があるが、形と機能との両面性を考え合わせると、平叙文 Aussagesatz 、疑問文 Fragesatz － 疑問文は、決定疑問文 V-1-Fragesatz と、補足疑問文 W-V-Fragesatz に分けられる － そして命令文 Imperativsatz を文型として認めるのが良いだろう。

文型と心態詞との関わりについて述べれば、心態詞によって、用いることのできる文型は、それぞれ決まっていることが明らかであり、発語内的力よりも、形が優先されるものである。

(23) a. Wo ist Eva doch gewesen?
b. *Schaffst du das doch bis morgen?
c. Das schaffst du doch bis morgen?

例えば、平叙文に現われる心態詞は、doch, ja,など、決定疑問文では、denn, mal,など、補足疑問文では、denn, doch, schon, bloß,など、命令文では、doch, ja, mal,など、というような分布が見られている。

(24)	・平叙文		doch, ja,...
	・疑問文	－ 決定疑問文	denn, mal,...
		－ 補足疑問文	denn, doch, schon, bloß,...
	・命令文		doch, ja, mal,...

それで、mir が心態詞であるならば、mir にも、文型との関連性が見られることが予想される。

mir は、一体、どのような文型に現われるものか、これから調べて行く。

---

[10] Altmann (1987) 参照。

3. 2. Imperativsatz　命令文

関心の与格の mir は、まず、命令文によく用いられる。

(25)　Gib mir auf die Kinder acht!　(Schmid 1988)

mir が入ることによって、一般論ではなく、話し手自身の関心から、相手に伝えたい事柄を発話している、と言ったニュアンスが出てくる。

mir は、相手に忠告を与えるような場合には、用いられない[11]。

(26)　Nimm mir ein Taxi!　(Thurmair 1989)

3. 3. Aussagesatz　平叙文

意味的なレベルから、感嘆文[12]と命令文の2パターンに区別される。

3. 3. 1. Exklamativsatz　感嘆文

(27)　Du bist mir vielleicht ein Held!　(Thurmair 1989)

話し手の、予期しない出来事への驚きを表わすが、ネガティブな、皮肉っぽい感じの文に用いられることが多い。この例では、この Held は、皮肉で、「弱虫」といった意味合いになる。

---

[11] Thurmair (1989)、S. 196。

[12] 感嘆文を独立した文型として認めるかどうかについては、議論がある。ここでは、「文型」は、平叙文・疑問文・命令文のみとし、感嘆文は、それぞれの構文に応じて、文型の中に組み込まれるものとする。Shioya (1995) 参照。

3. 3. 2. Aufforderungssatz 命令文

形は平叙文であるが、発語内的力 Illokution は命令の意味を表わしている。

(28) Du wirst mir pünktlich zu Hause sein! (Wegener 1989)

先程の命令形を用いた命令文と同様、話し手自身の関心から、相手に伝えたい事柄を発話している、といったニュアンスが加わる。

3. 4. Verb-Letzt-Satz 独立従属文

3. 4. 1. 独立従属文とは何か

今度は、独立従属文の例を見て行く。

Verb-Letzt-Satz あるいは、Verbendsatz と呼ばれるものを、ここで独立従属文と訳しておくことにする。

独立従属文というのは、簡単に言えば、従属文の形をしているけれども、主文がなく、独立して用いられるものである。つまり、文頭に、daß、ob、あるいは疑問詞などの従属節を導く接続詞があり、文末に、定動詞がある文をそのように呼ぶ。

(29) a. Ob er wohl kommt?

b. Daß du ja brav bist!

c. Wenn der Willi doch käme!

独立従属文は、意味的にはっきりした内容を表現する。例えば、(29) では、aは疑問文、bは命令文、cは願望文の働きを持つ。

また、独立従属文では、心態詞が多用されることも特徴的である。それによって、その文が表現する意味をはっきりさせるのであろう。

3. 4. 2. Aufforderungssatz 命令文

独立従属文と、mir との関わりを見てみると、mir は、命令文にしばしば使われている。

(30) Daß du mir pünktlich zu Hause bist! (Wegener 1989)

mir を用いることができるのは、これらの構文 Satztyp[13] である。

mir もまた、他の心態詞と同じように、文型システムとの密接な相関性を持っており、また、独立従属文と共に用いられた際にも、その文の持つ発語内的力をはっきりさせる働きがある。

4. dir の場合

4. 1. dir が現われる文型

今度は dir について見て行く。

さて、dir を関心の与格として用いた場合、mir の場合とは異なり、用いられるのはいわゆる感嘆文、すなわち平叙文の時のみに限られる。

(20) Der war dir besoffen! (Wegener 1988)

(31) Das sind dir vielleicht Gauner! (Thurmair 1989)

dir は、話し手は、聞き手に、自分が驚いたりしたことの原因や理由について注目を引きたいのだ、というニュアンスが出てくる。

4. 2. dir と mir の相違点

同じ関心の与格でも、mir と dir では、出てくる文型や構文に違いがある。mir は、命令文、平叙

---

[13] いわゆる文型 Satzmodus ではなくても、意味的にはっきりした特徴を持つ文のグループのことを、構文 Satztyp と呼ぶことにする。例えば、感嘆文・願望文など。

文（感嘆及び命令）、それから独立従属文に現われるが、dir は、平叙文（感嘆）のみである。

コミュニケーション上で果たす役割にも違いがあり、dir の方が、使われる用例も狭く、また、南ドイツ（Bairisch）方言の要素もあるようである[14]。

mir の例と dir の例を比べて明らかなように、dir を使うことができるのは、主語が3人称の場合に限られている。

(20) Der war dir besoffen! (Wegener 1988)

(31) Das sind dir vielleicht Gauner! (Thurmair 1989)

(18) *Fall dir nicht hin!

(19) *Du bist dir vielleicht ein Früchtchen! (Thurmair 1989)

dir は、主語が2人称の場合には、用いることができない。命令形の場合について言っても、命令というのは2人称の相手になされるものであるから、事実上、2人称を対象としており、やはり、dir を用いることはできない。

mir と dir とで、意味や用いられる文型に相違がある以上、mir も dir も、関心の与格としてまとめてくくってしまうより、mir は mir、dir は dir として、別個に扱うのが適当であろう。

5．終わりに

5. 1. 問題点の存在

これまでの考察から、mir に心態詞としての特徴があること、mir は心態詞として扱うことができることが明らかになった。しかし、なお問題点がない訳ではない。

例えば、mir を含んだ文が、話し手、すなわち1人称の自分自身の関心を表わし、一方、dir を含んだ文が、聞き手寄り、つまり2人称の相手の関心を引く、という働きがあることから、ある種の指示性があるのではないか、とも言えるであろう。先に挙げた、語順の問題とも絡んで、やはり、mir は代名詞なのではないのか、という考え方も当然存在する。

従って、関心の与格はあくまでも代名詞であり、代名詞の mir に、心態詞が表わすような話法のニ

---

[14] Thurmair (1989)、S．38。

ュアンスを付ける働きがある、と言うこともできるだろう[15]。

また、mir の場合に限らず、例えば、この用法ではこの単語は代名詞、この用法は副詞、この用法は心態詞、などと言うように品詞の種類を増やし、一つの語形に多くの同音異義語を数えれば良いというものない。

ところが一方、心態詞という存在そのものが、非常に曖昧なものなのである。

5. 2. 心態詞の曖昧さ

心態詞とは、一体どのようなものであるのか。

そもそも心態詞というのは、心態詞ごとに様々な特徴があり、例えば持っている同音異義語にしても、心態詞ごとにばらつきが見られる。ふと、立ち止まって、一体心態詞とは何なのだろうか、ということを考えてみた時、その実体は非常にぼやけたものになってしまう。

確かに、2. で挙げたように、心態詞には様々な特徴がある。けれども、一般に心態詞として認められているそれぞれの心態詞が、いわゆる「心態詞のメルクマール」すべてを満たしている訳ではない。

例えば、先に、心態詞のメルクマールとして挙げた、「心態詞にはアクセントがない」ということについても、アクセントのある心態詞の存在 － 具体的には、ja など － が広く知られている。

(32) Komm morgen JA nicht wieder zu spät!

また、「文頭には立たない」ということも、もし、eigentlich などを心態詞の仲間とみなした場合には － 実際、そのように扱われる場合が多い － 文頭に立つことのできる心態詞もあることになる。このように、心態詞とは何か、という基準も、とても曖昧なものである。

(33) Eigentlich müßten wir in diesem Sommer wieder einmal ins Ausland fahren.

Mir が果たして心態詞であるのかどうか、という議論で問題になったのは、mir に、多少の指示性があるのではないか、言わば、代名詞の名残があって、心態詞としては、不完全なところもあるので

---

[15] Meibauer (1992)、S. 50 参照。

はないか、ということについてであった。

しかし、心態詞の外見上の特色が曖昧である以上、それにこだわることはないように思われる。

5. 3. mir は「心態詞」である

確かに、心態詞と言えば、短めの単語で、アクセントを持たず、文頭にも出て来ない、などといった特徴がすぐ思い浮かぶし、また、心態詞と呼ばれている言葉について、多くは、当てはまるものではある。

けれども、それが、心態詞のすべて、という訳ではなく、心態詞の本質的なものというのはやはり、話し手の微妙なニュアンスを発話に添えるものである、という点にある。

そのように考えた時、いわゆる関心の与格の mir は、「心態詞」である、と言えるのではないであろうか。

参 考 文 献

Altmann, Hans. 1987. Zur Problematik der Konstitution von Satzmodi als Formtypen. In: Meibauer, J. (Hrsg.). Satzmodus zwischen Grammatik und Pragmatik. 1987. Tübingen. 22-56.

Engel, U. 1988. Deutsch Grammatik. Heidelberg.

Helbig, Gerhard. 1990. Lexikon deutscher Partikeln. 2. unveränd. Aufl. Leipzig.

Helbig, Gerhard/ Buscha, Joachim. 1991. Deutsche Sprache. Ein Handbuch für den Ausländerunterricht. 13. Aufl. Leipzig.

小坂光一　1992. 応用言語学としての日独語対照研究　同学社.

Meibauer, Jörg. 1994. Modaler Kontrast und konzeptuelle Verschiebung. Studien zur Syntax und Semantik deutscher Modalpartikeln. Tübingen.

小川　暁夫　1991. 3格の実現について　『ドイツ文学 87』

Oppenrieder, Willhelm. 1989. Selbständige Verb-letzt-Sätze: Ihr Platz im Satzmodussystem und intonatorische Kennzeichnung. In: Altmann, H/ Batliner, A/ Oppenrieder, W.(Hrsg.). Zur Intonation von Modus und Fokus im Deutschen. 1989. Tübingen. 163-244.

Schmid, Josef. 1988. Untersuchungen zum sogenannten freien Dativ in der Gegenwartssprache und auf Vorstufen des heutigen Deutsch. Frankfurt am Main.

清水　朗　1994. 中高ドイツ語における与格の用法　『ドイツ文学 92』

Shioya,Yukiko. 1996. Kann der 'Exklamativsatz' über den Satzmodus herauskommen? 『エネルゲイア 21 号』

Thurmair, Maria. 1989. Modalpartikeln und ihre Kombinationen. Tübingen.

Wegener, Heide. 1985. Der Dativ im heutigen Deutsch. Tübingen.

Wegener, Heide. 1989. Eine Modalpartikel besonderer Art: Der Dativus Ethicus. In: Weydt, H. (Hrsg.). 1989. Sprechen mit Partikeln. Berlin. 56-73.

Weinrich, H. 1993. Textgrammatik der deutschen Sprache. Mannheim.

(北海道大学大学院博士後期課程)